

[B年] 待降節第4主日(2023年12月24日)

【旧約聖書日課】ゼカリヤ書 2章14～17節

- 14 娘シオンよ、声をあげて喜べ。
わたしは来て
あなたのただ中に住もう、と主は言われる。
- 15 その日、多くの国々は主に帰依して
わたしの民となり
わたしはあなたのただ中に住もう。
こうして、あなたは万軍の主がわたしを
あなたに遣わされたことを知るようになる。
- 16 主は聖なる地の領地として
ユダを譲り受け
エルサレムを再び選ばれる。
- 17 すべて肉なる者よ、主の御前に黙せ。
主はその聖なる住まいから立ち上がられる。

【使徒書日課】

ヘブライ人への手紙 10章1～10節

いったい、律法には、やがて来る良いことの影があるばかりで、そのものの実体はありません。従って、律法は年ごとに絶えず献げられる同じいけにえによって、神に近づく人たちを完全な者にすることはできません。²もしできたとするなら、礼拝する者たちは一度清められた者として、もはや罪の自覚がなくなるはずですから、いけにえを献げることが中止されたはずではありませんか。³ところが実際は、これらのいけにえによって年ごとに罪の記憶がよみがえって来るのです。⁴雄牛や雄山羊の血は、罪を取り除くことができないからです。⁵それで、キリストは世に来られたときに、次のように言われたのです。

「あなたは、いけにえや献げ物を望まず、むしろ、わたしのために体を備えてくださいました。」

- 6 あなたは、焼き尽くす献げ物や罪を贖うためのいけにえを好まれませんでした。
- 7 そこで、わたしは言いました。

『御覧ください。』

わたしは来ました。

聖書の巻物にわたしについて書いてあるとおり、

神よ、御心を行うために。』」

8ここで、まず、「あなたはいけにえ、献げ物、焼き尽くす献げ物、罪を贖うためのいけにえ、つまり律法に従って献げられるものを望みもせず、好まれもしなかった」と言われ、⁹次いで、「御覧ください。わたしは来ました。御心を行うために」と言われています。第二のものを立てるために、最初のを廃止されるのです。¹⁰この御心に基づいて、ただ一度イエス・キリストの体が献げられたことにより、わたしたちは聖なる者とされたのです。

【福音書日課】ルカによる福音書 1章57～66節

⁵⁷きて、月が満ちて、エリサベトは男の子を産んだ。⁵⁸近所の人々や親類は、主がエリサベトを大いに慈しまれたと聞いて喜び合った。⁵⁹八日目に、その子に割礼を施すために来た人々は、父の名を取ってザカリアと名付けようとした。⁶⁰ところが、母は、「いいえ、名はヨハネとしなければなりません」と言った。⁶¹しかし人々は、「あなたの親類には、そういう名の付いた人はだれもない」と言い、⁶²父親に、「この子に何と名を付けたいか」と手振りで見せた。⁶³父親は字を書く板を出させて、「この子の名はヨハネ」と書いたので、人々は皆驚いた。⁶⁴すると、たちまちザカリアは口が開き、舌がほどけ、神を賛美し始めた。⁶⁵近所の人々は皆恐れを感じた。そして、このことすべてが、ユダヤの山里中で話題になった。⁶⁶聞いた人々は皆これを心に留め、「いったい、この子はどんな人になるのだろうか」と言った。この子には主の力が及んでいたのである。

「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

ゼカリヤ書2章14～17節

14 娘シオンよ、喜び歌え

今、私は来て

あなたのただ中に住むからだ——主の仰せ。

15 その日には、多くの国民が主に連なり

私の民となる。

私はあなたのただ中に住む。

こうして、あなたは万軍の主が私を

あなたに遣わされたことを知るようになる。

16 主は聖なる土地で

ユダをご自分の割り当て地として所有し

エルサレムを再び選ばれる。

17 すべての肉なる者よ、主の前に静まれ。

主がその聖なる住まいから

起き上がられたからである。」

ヘブライ人への手紙10章1～10節

1律法には、やがて来る良いことの影があるばかりで、そのものの実体はありません。ですから、年ごとに絶えず献げられる同じいけにえによって、神に近づく人たちを完全な者にするにはできないのです。2もしできたとするなら、礼拝する者たちは一度清められた以上、もはや罪の自覚がなくなるのですから、献げ物をするには中止されたはずで、3ところが実際は、いけにえによって年ごとに罪の記憶がよみがえって来るのです。4雄牛や雄山羊の血は、罪を取り去ることができないからです。5それで、キリストは世に来て、次のように言われたのです。

「いけにえも供え物も、あなたは望まず私のために、体を備えてくださった。

6 焼き尽くすいけにえも清めのいけにえも

あなたは喜ばれなかった。

7 その時、私は言いました。

『御覧ください。私は来ました。』

巻物の書に私について書いてあるとおり

神よ、御心を行うために。』」

8初めに、こう言われました。「いけにえや供え物、焼き尽くすいけにえや清めのいけにえを、あなたは望まれず、喜ばれなかった。」これらは、律法に従って献げられるものです。9次に、こう言われました。「御覧ください。私は来ました。御心を行うために。」第二のものを立てるために、最初のを廃止されるのです。10この御心に基づいて、ただ一度イエス・キリストの体が献げられたことにより、私たちは聖なる者とされたのです。

ルカによる福音書1章57～66節

57さて、月が満ちて、エリサベトは男の子を産んだ。58近所の人々や親類は、主が彼女を大いに慈しまれたと聞いて喜び合った。59八日目に、幼子に割礼を施すために人々が来て、父の名を取ってザカリヤと名付けようとした。60ところが、母親は、「いいえ、ヨハネとしなければなりません」と言った。61人々は、「あなたの親族には、そのような名の人は誰もいない」と言い、62父親に、「この子に何と名を付けたいか」と手振りで尋ねた。63父親は書き板を持って来させて、「その名はヨハネ」と書いたので、人々は皆不思議に思った。64すると、たちまちザカリヤは口が開き、舌がほどけ、ものが言えるようになって神をほめたたえた。65近所の人々は皆恐れを抱いた。そして、このことすべてが、ユダヤの山里中で話題になった。66聞いた人々は皆これを心に留め、「この子は一体、どんな人になるのだろうか」と言った。主の御手がこの子と共にあった。

黙想のためのノート**次主日の教会暦と聖書日課**

・12月24日「待降節第4主日」の日課主題は「先駆者」。待降節最後の主日で、この日から始まる週のうちに降誕日を迎える。日本の多くのプロテスタント教会では、待降節中であっても、慣例により「降誕日」までの主日に「クリスマス礼拝」を祝ってきた。

・旧約聖書日課は、「ゼカリヤ書」から、「第三の幻」と呼ばれる預言の一部箇所。使徒書日課は、「ヘブライ人への手紙」から、贖罪の犠牲としてのキリストを教える箇所。福音書日課は、「ルカによる福音書」から、子を身ごもったマリアがエリサベトを訪ねたときの出来事を物語る箇所。

旧約日課(ゼカリヤ2章より)

・「ゼカリヤ書」は、ユダヤ正典(ヘブライ語聖書)「後の預言者」の第四に位置づけられる「十二小預言者」の11番目に置かれた預言書。直前に置かれた「ハガイ書」と様式的に酷似し、また実際に各段で見出しとして用いられる年号月日が連続しており、両書は元来、一書の預言書だったとも考えられている。他方で、「ゼカリヤ書」そのものは1~8章までが「ハガイ書」と同じ様式であるのに対して、9~14章は様式が異なり、後に置かれた「マラキ書」に似た様式になっており、「ゼカリヤ書」そのものを前後半で分けて元来別々の書であったと考える学者もある。「ハガイ書」~「ゼカリヤ書」1~8章で各段の見出しとして掲示される年号月日に現れる「ダレイオス」は、バビロニアを併合してペルシア帝国を確立したキュロス大王(在位=前559~529年頃)の二代後、ダレイオス王(I世、在位=前522~486年頃)を指すとみなされている。ダレイオス王(I世)は、キュロス大王の後継カンビュセス王の崩御に伴う混乱に乗じて王位を篡奪した者であったが、キュロス大王の後継を強く主張し、キュロス大王の始めた帝国支配制度を確立した王として知られる。「エズラ記・ネヘミヤ記」には、預言者の「ハガイ」と「ゼカリヤ」が登場する(エズラ5:1、同6:14)。

・日課箇所は、2:1「ダレイオス王の第二年、七月十一日」の年号月日が見出しとなる預言集(八つの幻集)の一部である。額面通りに解すれば、これは前521年頃、キュロス大王によってバビロン捕囚が解放されてから17年後に当たる。解放に伴うユダヤ帰還事業は、「エズラ記」によれば4万人以上の人員によって為されたものとされているが(エズラ2:64)、実際にペルシア支配時代前半のエルサレムの人口は最大で1500人、エルサレムを含むユダヤ属州全体でも3万人程度だったとされる。帰還・エルサレム再建事業は、ペルシア王キュロスの任命により、ゼルバベルをはじめとする元王族や大祭司ヨシヤを筆頭とする祭司集団に託された統治事業であったため、王国末期からバビロン捕囚時代に至るまで続いていたユダヤ社会分断の影響を引きずって、必ずしも順調には進展し

なかったとされる。また、キュロス王の後を継いだカンビュセス王の時代には、混乱の中で事業は停滞してしまっていた。しかし、ダレイオス王の時代になると地方統治の制度が確立し、エルサレム再建事業が再び軌道に乗るようになった。日課箇所は、このような背景の中でユダヤ社会に向けてエルサレム再建事業に参画することを呼びかける預言であったと考えられる。

・日課箇所の解釈は、必ずしも明瞭ではない。「わたし」と一人称で語られる者は、「主(ヤハウェ)」としても、「主が遣わした者」としても、解される。これには、ダレイオス王の時代に強く主張されていた帝国統治理論が反映しているのかもしれない。同王は、バビロン・マルドゥク神をはじめとするバビロニア諸神の守護者を喧伝したキュロス大王と異なり、ペルシア固有のアウラムズダ神(=アフラムズダ神<ゾロアスター教)の恩寵による支配権を主張し、一種の王権神授観に基づく統治機構を確立しようとした。これにより、地方諸州には王の代理人としての太守が任命されていたが、彼ら王から遣わされた者も、原理的には神から遣わされた者であり、神の代理人とみなされた。代理人は、「神/王」に遣わされた者として発言することもあれば、「神/王」になり替わって発言することもあるのである。

使徒書日課(ヘブライ10章)

・「ヘブライ人への手紙」については、資料「聖書と祈りの会 231115」も参照。

・旧約「律法」に基づいてイエス・キリストを「真の大祭司」として提示してきた本書は、「幕屋=神殿」に仕える「大祭司」が「贖罪日」の儀式によって「民の罪を贖う犠牲」を捧げて民のために祈るように、キリストは「天の幕屋」で自らを最終的な「民の罪を贖う犠牲」としてささげると提示している。日課箇所では、旧約詩編(詩40:7~9)を引用して、地上における「贖罪の犠牲」が廃止されるために、最後の究極の「犠牲」となるためにキリストが来られた、ということを示そうとしている。

・5節「キリストは世に来られたときに…言われたのです」の直訳は、「この世界(コスモス)に入られた方は言われました」で、新共同訳の「キリスト」は意識として補われている。「コスモス」は、本書簡では、創造の御業によって造られた世界を意味している。他方、「キリスト」については、「ヨハネ福音書」に近い「先在論」を取っており、5節の言説は、「この世界」ではないところに在られた方が「この世界」に入って来られたという理屈から、「キリスト」のことに言及していると解される。・5~7節の詩編の引用は、推認される「キリスト」の発言とみなされている。詩編40編は「ダビデの詩」であり、本書簡は他所では詩編の引用を「ダビデを通して語られた」(4:7)と断つてもある。これは、本書簡が旧約正典を究極的には「神の言葉」に帰されるものとして理解したうえで、「キリスト」を「神」と同等の存在とみなすことによってなされた解釈と言える。

福音書日課(ルカ1章より)

・日課箇所は、「ヨハネとイエスの降誕物語」の中で「ヨハネの誕生」が物語られる逸話。「ヨハネ誕生の告知」が物語られる逸話(1:5~25)とは、「マリアの受胎告知～マリアのエリサベト訪問～マリアの賛歌」を挟んで、接続した構成となっている。元来、ここにあるような「ヨハネ誕生伝承」がどの程度まとまりのあるものとして知られていたのかは分からないが、全体として旧約で物語られる男児誕生物語を敷衍して構成されていることは明白で、意図をもって物語として構想されたものと考えられる。日課箇所は、「誕生の告知」で口が利けなくなっていた父ザカリアの舌がほどけ、神を賛美し始めるようになったきっかけとして、「ヨハネ」という命名が描かれている。

・「ヨハネ」の名は、ヘブライ語で「主は恵み深い」という意味の「ヨハーナーン」であるとされるが、旧約には「ヨハネ」という名の人物は登場しない。ただし、「旧約聖書統編」の「マカベア書」各書には繰り返し登場しており、1世紀のユダヤ人社会では広く用いられた。

来週の誕生日 (12月24日～30日)

主日礼拝の讃美歌から

・21-246 番「天のかなたから」(= I 101「いずこの家にも」)。M.ルターが自分の子供たちのために作詞作曲。当初は礼拝のための歌とはされていなかったが、次第に礼拝で歌われるようになった。

・21-249 番「おさなご 主イエスよ」(= I 110「優しくも愛らしき」)は、作詞者作曲者とも不詳。原曲は別の歌詞に付された曲として1623年出版の「カトリック教会讃美歌選集」(ケルン)にあり、その後、プロテスタント作曲家によって「幼子主イエスよ」に付されて歌われるようになった。

・21-69 番「神はそのひとり子を」(☐20番)は、現代オーストラリアのルター派讃美歌作家ロビン・マンの作詞作曲で、アジアキリスト教協議会編纂の「Sound the Bamboo: CCA Hymnal 1990」所収。

・21-76 番「今こそ歌いて」は、中世最大の神学者トマス・アキナスによる聖餐讃美の詞。曲はフランス教会旋律による。

・21-262 番「聞け、天使の歌」(= I 98「あめにはさかえ」)は、C.ウェスレーの代表的な作詞、1739年出版の讃美歌集に収録。1840年にF.メンデルスゾーンがこの歌詞のために作曲、演奏したものが元になって、広く各国で歌われるようになった。

21-246「天のかなたから」

Vom Himmel Hoch, Da Komm Ich Her

1. Vom Himmel hoch, da komm ich her. / Ich bring' euch gute neue Mär, / Der guten Mär bring ich so viel, / Davon ich singn und sagen will.
2. Euch ist ein Kindelein heut' geborn / Von einer Jungfrau auserkorn, / Ein Kindelein, so zart und fein, / Das soll eu'r Freud und Wonne sein.

3. Es ist der Herr Christ, unser Gott, / Der will euch führn aus aller Not, / Er will eu'r Heiland selber sein, / Von allen Sünden machen rein.
4. Er bringt euch alle Seligkeit, / Die Gott der Vater hat bereit, / Daß ihr mit uns im Himmelreich / Sollt leben nun und ewiglich.
5. So merket nun das Zeichen recht: / Die Krippe, Windelein so schlecht, / Da findet ihr das Kind gelegt, / Das alle Welt erhält und trägt.
6. Des laßt uns alle fröhlich sein / Und mit den Hirten gehn hinein, / Zu sehn, was Gott uns hat beschert, / Mit seinem lieben Sohn verehrt.
7. Merk auf, mein Herz, und sieh dorthin! / Was liegt dort in dem Krippelein? / Wes ist das schöne Kindelein? / Es ist das liebe Jesulein.
8. Sei mir willkommen, edler Gast! / Den Sünder nicht verschmähst hast / Und kommst ins Elend her zu mir, / Wie soll ich immer danken dir?
9. Ach, Herr, du Schöpfer aller Ding, / Wie bist du worden so gering, / Daß du da liegst auf dürrem Gras, / Davon ein Rind und Esel aß!
10. Und wär' die Welt vielmal so weit, / Von Edelstein und Gold bereit', / So wär sie doch dir viel zu klein, / Zu sein ein enges Wiegelein.
11. Der Sammet und die Seide dein, / Das ist grob Heu und Windelein, / Darauf du König groß und reich / Herprangst, als wär's dein Himmelreich.
12. Das hat also gefallen dir, / Die Wahrheit anzuzeigen mir: / Wie aller Welt Macht, Ehr und Gut / Vor dir nichts gilt, nichts hilft noch tut.
13. Ach, mein herzliebes Jesulein, / Mach dir ein rein, sanft Bettelein, / Zu ruhen in meins Herzens Schrein, / Daß ich nimmer vergesse dein.
14. Davon ich allzeit fröhlich sei, / Zu springen, singen immer frei / Das rechte Susanne schon, / Mit Herzenslust den süßen Ton.
15. Lob, Ehr sei Gott im höchsten Thron, / Der uns schenkt seinen ein'gen Sohn. / Des freuen sich der Engel Schar / Und singen uns solch neues Jahr.

21-249 番「おさなご主イエスよ」

O Jesulein süss, O Jesulein mild

1. O Jesulein süß, o Jesulein mild! / Deines Vaters Willen hast du erfüllt, / bist kommen aus dem Himmelreich, / uns armen Menschen worden gleich. / O Jesulein süß, o Jesulein mild!
2. O Jesulein süß, o Jesulein mild! / Mit Freuden hast du die Welt erfüllt. / Du kommst herab vom Himmelssaal / und tröstest und in dem Jammertal. / O Jesulein süß, o Jesulein mild!
3. O Jesulein süß, o Jesulein mild! / Du bist der Lieb ein Ebenbild; / zünd' an in uns der Liebe Flamm', / daß wir dich lieben allzusamm'. / O Jesulein süß, o Jesulein mild!
4. O Jesulein süß, o Jesulein mild! / Hilf, daß wir tun All's, was du willst; / was unser ist, ist alles dein, / ach, laß uns dir befohlen sein. / O Jesulein süß, o Jesulein mild!

21-262「聞け、天使の歌」

Hark! the Herald Angel Sing

1. Hark! the herald angels sing, / "Glory to the new born King, / peace on earth, and mercy mild, / God and sinners reconciled!" / Joyful, all ye nations rise, / join the triumph of the skies; / with th' angelic host proclaim, / "Christ is born in Bethlehem!" / Hark! the herald angels sing, / "Glory to the new born King!"
2. Christ, by highest heaven adored; / Christ, the everlasting Lord; / late in time behold him come, / offspring of a virgin's womb. / Veiled in flesh the Godhead see; / hail th' incarnate Deity, / pleased with us in flesh to dwell, / Jesus, our Emmanuel. / Hark! the herald angels sing, / "Glory to the new born King!"
3. Hail the heaven-born Prince of Peace! / Hail the Sun of Righteousness! / Light and life to all he brings, / risen with healing in his wings. / Mild he lays his glory by, / born that we no more may die, / born to raise us from the earth, / born to give us second birth. / Hark! the herald angels sing, / "Glory to the new born King!"